
2日間の妄想クリスマス

まなつか

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

2日間の妄想クリスマス

【Nコード】

N0482Z

【作者名】

まなつか

【あらすじ】

あのとき、僕は何を考えていたんだろう。

思い出すのは彼女の柔らかい唇、雪のように綺麗な手。それもだんだん現実味がなくなってきた。彼女がいなくなってから僕はずっと彼女を追いつけていた。姿形ないものを

夏の作家（自称）、まなつかが贈る冬のちよつと儚いクリスマスラブストーリー。聖夜に起こる、一つの奇跡。人間の極限までの

愛を題材にしました。

01 話「序章」(前書き)

最初はかなり暗いですが、読み進めていくにつれて明るくなる
はずです。

01話「序章」

あのととき、僕は何を考えていたんだろう。

思い出すのは彼女の柔らかい唇、雪のように綺麗な手。それもだんだん現実味がなくなってきたしまった。彼女がいなくなってから僕はずっと彼女を追い続けていた。姿形ないものを

+ * +

2011年12月24日

「寒い……い」

思わず口に出してしまう。それがまた空しさを増した。一年前のこの日も寒かった。同じようなことを口にしたと思う。彼女は笑って「そうだね」とだけ言ってその華奢な身を寄せてきた。僕はそれに応えるように腕を回した。

僕は筆記用具などの事務用品を作っている会社に勤めている。入社して3年。もう会社にも慣れ、この毎朝の通勤ラッシュにも慣れた。慣れないのは彼女のいない生活だった。彼女の名前は空水七里。僕より一つ年下の後輩。僕が入社して一年後に同じ部署に入ってきた。初めて持つ後輩、僕は嬉しかった。仕事を教えるうちに仲は良くなり、一年半前ほどから付き合っていた。笑顔が可愛かった、ふとした仕草が可愛かった、声も可愛かった、何もかも、可愛かった。だけど彼女は雪だるまが翌日水たまりに変わっているようにある日、消えた。そう、消えた。行方不明。警察に依頼した。だけども見つからなかった。そして捜査は中断された。

いつもの席に着く。この会社が作った事務用の回転する椅子だ。背もたれにもたれるときしりと音を立てて傾く。隣をみた。

「矢田先輩、ここの関数ってどうやるんですっけ？」

声が聞こえてくる。あの優しい柔らかな声だ。そう、彼女はいつも表計算ソフトの使い方で僕に訊いてきたっけ。そう思っても空しさが余計に募るだけだった。

01話「序章」（後書き）

こんにちは、まなつかです。

今回は毎年恒例！ クリスマス小説です。

去年はChristmas of the rainを発表しましたね。いまいちでしたが、今回は少し気合い入れて書いています。そしてクリスマスには完結する予定です。

最終話は作家らしくファミレスにわざわざ行って書く予定です。作家じゃないけど。

それではまた2話で会いましょう。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0482z/>

2日間の妄想クリスマス

2011年12月1日21時45分発行